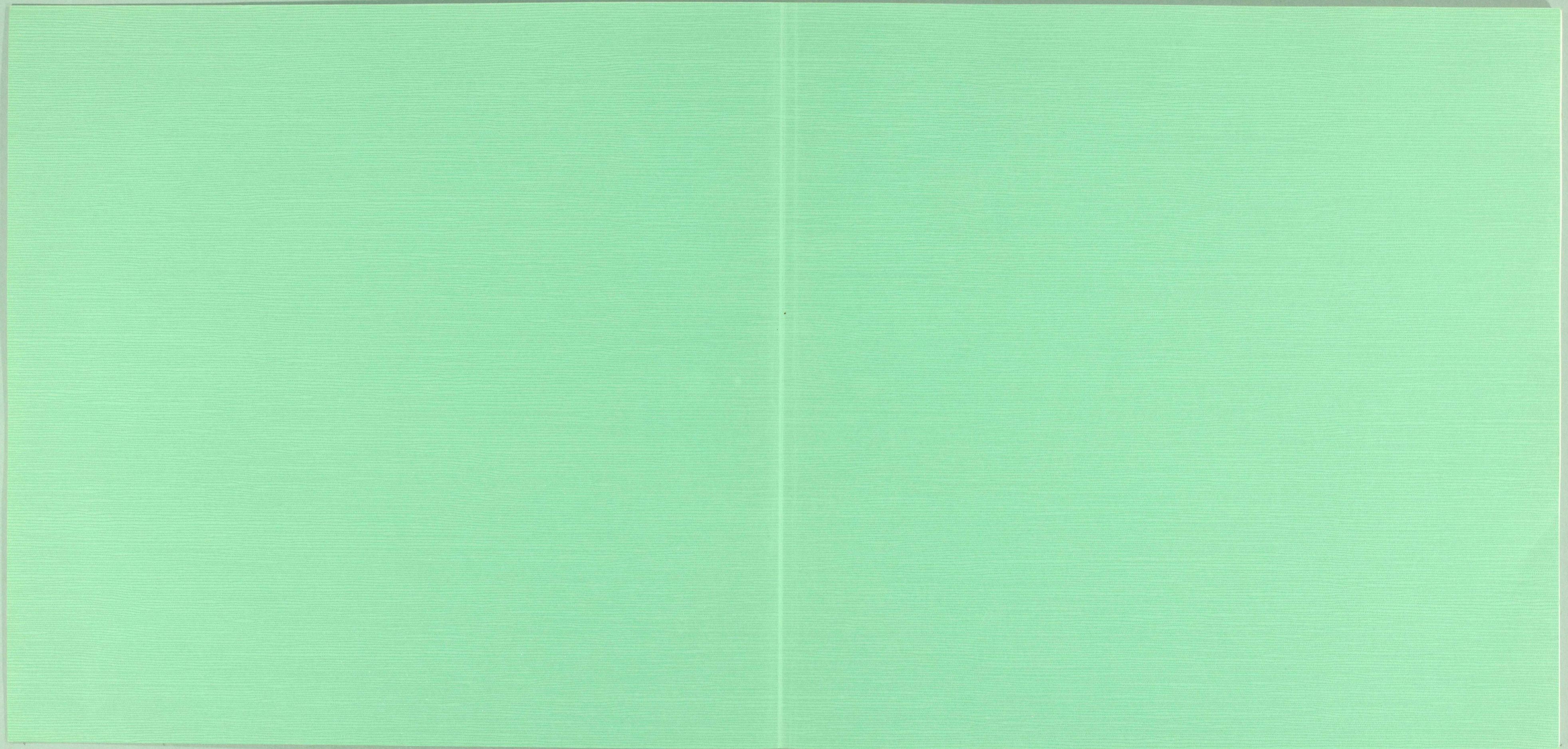


'97 熊本市勢要覧

HAPPINESS KUMAMOTO







CONTENTS

写真説明

熊本城

熊本城は、かつて大阪城、名古屋城とともにわが国三名城に数えられた城郭で、慶長12年（1607）加藤清正が7年の歳月をかけて、周囲9km、大天守、小天守、櫓49、櫓門18をもつ複雑かつ壮大な城をつくった。

明治10年（1877）の西南の役に官軍がたてこもり、西郷隆盛の軍に50余日にわたって攻撃され、そのほとんどが焼失し、昭和35年9月現在の太天守、小天守が再建された。

熊本市(市木・市花・市鳥).....	1
発刊にあたって.....	2
熊本市歌.....	4
地域と気象.....	5
人 口.....	6
基本構想／水と緑の人間環境都市を目指して.....	8
〃 ／いきいきとした市民福祉都市を目指して.....	8
〃 ／活力あふれる交流拠点都市を目指して.....	9
〃 ／風格ある文化創造都市を目指して.....	9
しあわせ実感くまもと	
◎健康を実感できる「安全で健やかなまちづくり」	
防 災.....	12
消 防.....	13
交通安全.....	14
健康文化.....	15
保健医療.....	16
良好な環境づくり.....	18
緑と水.....	19
ごみ・し尿処理.....	20
生活環境.....	22
◎豊かな人間関係を保つ「心のかようまちづくり」	
地域福祉.....	24
高齢者福祉.....	25
心身障害者福祉.....	26
児童・母子福祉.....	27
社会保障.....	28
学校教育.....	30
学校施設.....	31
社会教育.....	32
青少年の健全育成.....	33
創造的な人づくり.....	34
消費者行政.....	35
男女共同参画社会.....	36

国際交流.....	37
市民参加のまちづくり.....	39
◎仕事や活動を通して「生きがいを感じるまちづくり」	
中小企業.....	41
魅力ある商店街.....	42
工 業.....	43
流通・情報拠点.....	44
雇用福祉.....	45
観光・コンベンション.....	46
農林水産業.....	49
住 宅.....	50
公園緑地.....	51
上水道.....	52
下水道.....	53
市電・市バス.....	54
道路・駐車場.....	55
基幹交通.....	56
市街地開発.....	57
◎美しいものに感動できる「豊かな感性を育むまちづくり」	
歴史文化.....	61
史跡・文化財.....	62
都市景観.....	63
市民文化.....	64
生活文化.....	65
行 政.....	66
市議会.....	68
財 政.....	70
広報・広聴.....	71
名誉市民.....	72
熊本市のあゆみ.....	73
市民のくらし.....	79
熊本市案内図.....	80
資料編.....	81

市木・市花・市鳥

市木・市花 昭和49年10月9日制定
市 鳥 昭和58年5月22日制定

THE SYMBOL TREE IN KUMAMOTO

●市 木 イチョウ(イチョウ科)

熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齡が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しさでよく知られている。



THE SYMBOL FLOWER IN KUMAMOTO

●市 花 肥後椿(ツバキ科)

江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ神社地の豪族等の愛好者によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花弁が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがる場所にある。

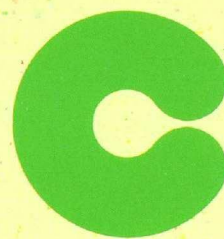


THE SYMBOL BIRD IN KUMAMOTO

●市 鳥 シジウカラ(シジウカラ科)

全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。

(写真は、東海大学出版会提供フィールド図鑑より)



熊本市章

ひらがなの「く」の字を図案化したもので、市民の調和を基とし、たくましく発展する熊本市の姿を太い円で示したものです。

H A P P I N E S S K U M A M O T O

発刊にあたって

水と緑の豊かな自然に恵まれ、優れた伝統と文化を有する熊本市は、今や人口65万人を越え、全国でも有数の大都市となりました。

このような中で、特に昨年4月の中核市移行は熊本市にとって大きな出来事であり、今後の政令市移行も視野に入れた本市の更なる発展に向けた歴史的第一歩でありました。

今後、この第一歩を単に市民サービスの向上ということだけでなく、市民のみなさまとともに魅力と活力にあふれる住民主体の街を作り上げていくためのステップにしなければならぬと考えております。

私は、市政を運営するに当たり、「全ての市民が幸せを実感できるまちづくり」という目標に向けて、その実現のため、健康を実感できる「安全で健やかなまちづくり」、豊かな人間関係のある「心の通うまちづくり」、仕事や活動をとおして「生きがいを感じるまちづくり」、美しいものに感動できる「豊かな感性を育むまちづくり」の4項目を柱に総合的、体系的に施策の展開を図ることとしています。

特に、重点的に取り組む施策については、熊本市の都市像達成に欠かせない誘導的プロジェクトとして、熊本駅周辺整備をはじめ、防災公園の建設、熊本城の整備、水資源の確保について具体的施策を展開していきたいと思っております。

同時に、都市圏交通のあり方、リサイクル型社会の形成へ向けての基本的方向づけ、市公共施設の管理運営のあり方の研究、健康と命を大切にするためのプランづくりなど、全庁を挙げて取り組んでまいります。

また、平成9年度は行政改革元年とし、「行政改革大綱」を基に、「職員の意識改革並びに市民と行政との役割分担の確立」「事務事業の総点検」「行財政システムの簡素・効率化」の3点を基本として、行政改革に取り組むことにしています。

更に、開かれた市政を展開することで、市民の皆様の信頼を得るとともに、熊本らしい特色ある都市、すべての市民のみなさまが幸せであると実感ができ、熊本に生まれてよかった、熊本に住んでよかったと思えるようなまちづくりを目指していきたいと思っております。

この'97市勢要覧は、21世紀に向けて、大きく羽ばたく新熊本市の姿を収録したものであり、ご高覧のうえ、市政への一層のご理解をいたされれば、誠に幸いに存じます。

平成9年3月

熊本市長 三角保之

個性あふれる 人づくりまちづくり

熊本市歌

東岡 正治作詞

鳥飼 哲夫作曲

1. 霊峰阿蘇を遙かに望み
水白川の流れに沿って
天下に名だたる古城の都
われらの都 大熊本市
2. 常盤の緑 いらかを包み
森の都と世に謳われて
文運さかゆる平和の都
われらの都 大熊本市
3. 商工立市の営みしげく
いま新興の光に満ちて
生氣ぞあふるる文化の都
われらの都 大熊本市
4. 輝く進取の旗ひるがえし
西日本の最中に立ちて
いざいざ築かむ理想の都
われらの都 大熊本市

■熊本市民愛市憲章

—品位ある市民の誇りのために—

■都市宣言

- 「森の都」都市宣言に関する決議
- 地下水保全都市宣言に関する決議

■健康都市宣言

■平和都市宣言

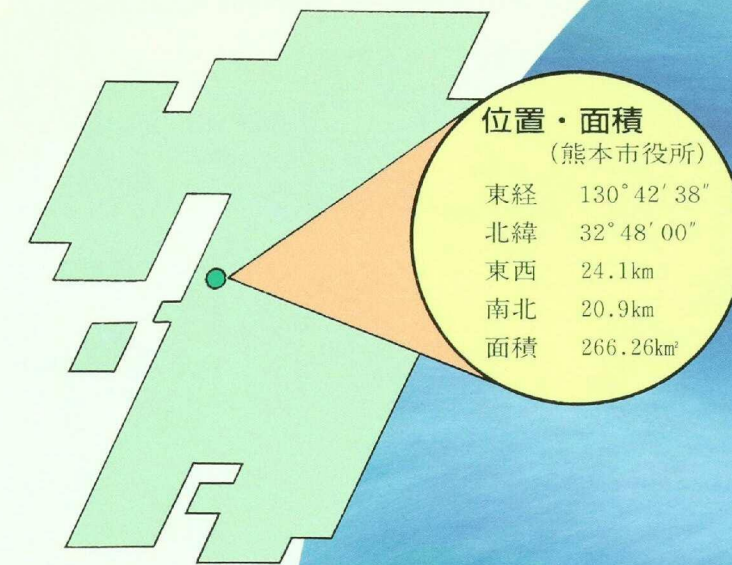
■環境保全都市宣言

本市は九州の中央、熊本県の西北部、東経130度42分・北緯32度48分の位置にあります。

この位置と同緯度に近い都市としては、長崎市や中国の南京市があります。地勢は西北部から北部にかけて金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の小火山の噴出物で覆われた台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯であり、南部は阿蘇火山に源を発する白川の三角洲で形成された低平野からなっています。

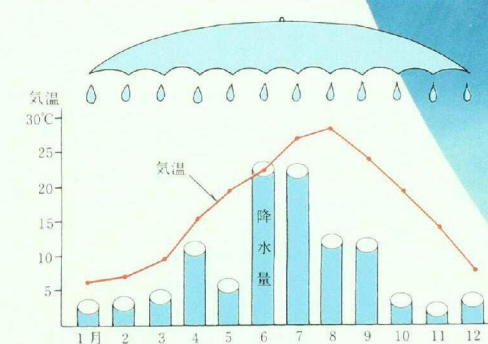
気候は緯度からいえば温暖な地帯にあるが有明海との間に金峰山系が連なるため、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。また、夏の方方は「肥後の夕風」といって、蒸し暑いのが特徴です。

気温は年平均16.2℃で、平成7年の最高気温は8月の37.0℃、最低気温が1月の-5.6℃となっています。年間降水量は1,876mmと、例年並でありました。また、風向きは春から夏にかけて西南西の風が強く、秋から冬にかけては西北西に変わり、風速は1年を通じて2m前後のゆるやかな風が吹いています。



地域と気象

■気温と降水量の月別変化 (平成3年～平成7年平均)



資料：熊本地方気象台

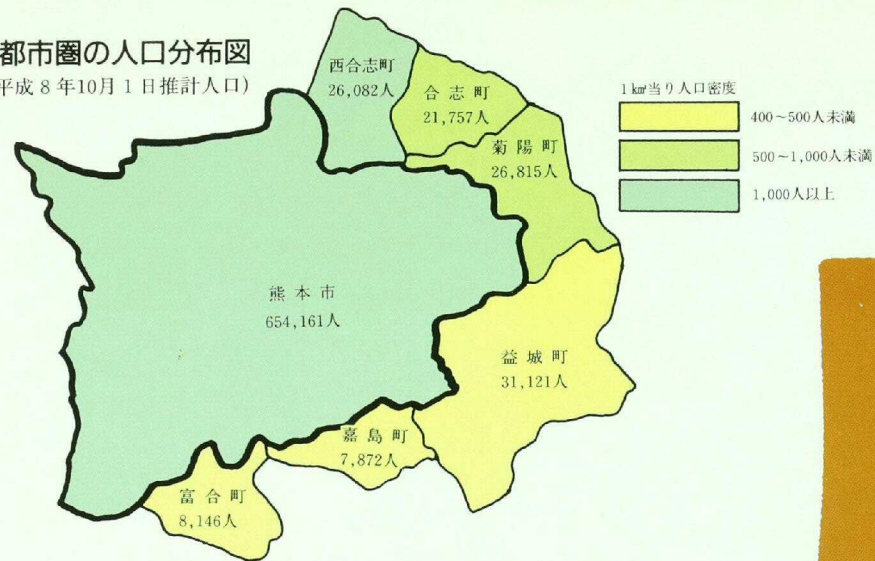
■地目別土地面積 (平成9年1月1日現在)



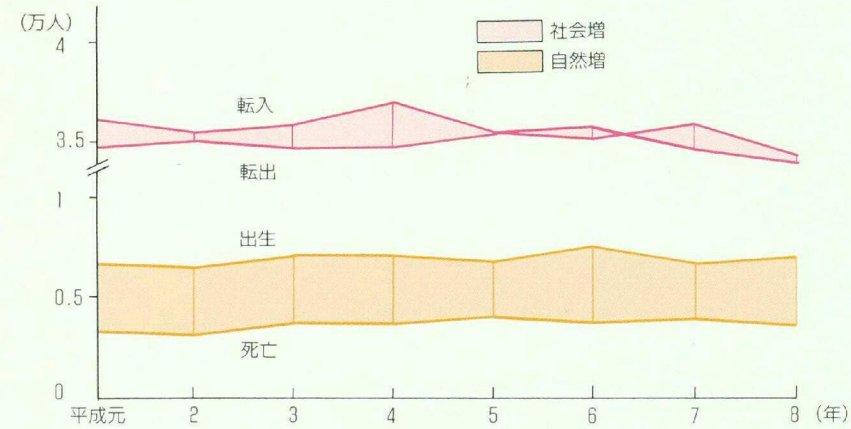
資料：固定資産概要調査

■熊本都市圏の人口分布図

(平成8年10月1日推計人口)



■人口動態の推移



資料：市統計課

明治22年、市制施行当時42,725人(M.22.12.31現在)であった本市の人口は、その後、数回にわたる市域の拡大や都市機能の集積等に伴い増大し、昭和52年には50万人を越え、平成3年2月1日には、飽託郡4町と合併し、627,568人(224,219世帯)となり、岡山市を抜いて全国で15位となりました。また、近年の人口増加は年率1%前後で推移し、一世帯当たり人員は平成9年1月1日現在で、2.61人となっています。

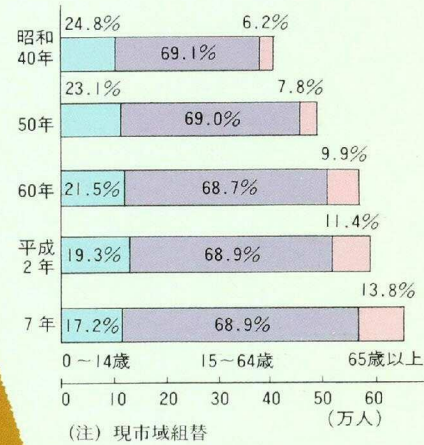
また、平成7年と2年の国勢調査を比べると、23,614人、3.8%の増加で、昭和50年以降、増加数、伸び率ともに鈍化しています。

さらに年齢3区分別に構成比をみると、0～14歳の年少人口が17.2%、15～64歳の生産年齢人口が68.9%、65歳以上の老年人口が13.8%となっており、平成2年より、年少人口の割合が2.1ポイント低下したのに対し、老年人口が2.4ポイント上昇するなど、高齢化がさらに進行しています。

また、人口の地域分布では、平成7年の国勢調査概数結果でみると、およそ東部に19万8千人、北部に12万2千人、中央部に14万3千人、南部に11万1千人、西部に7万5千人となっています。この中で、中央部だけが人口の減少が続いています。

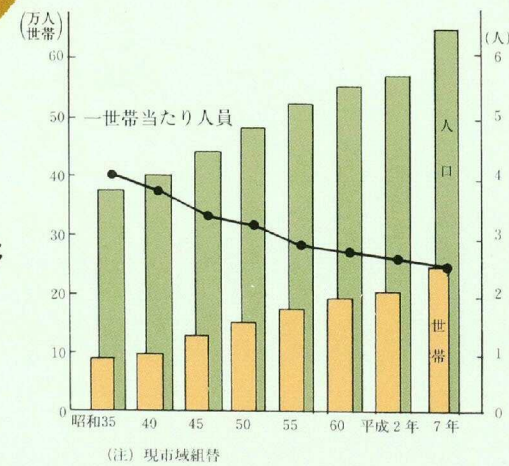
■人口の年齢(3区分)構成推移

(国勢調査)



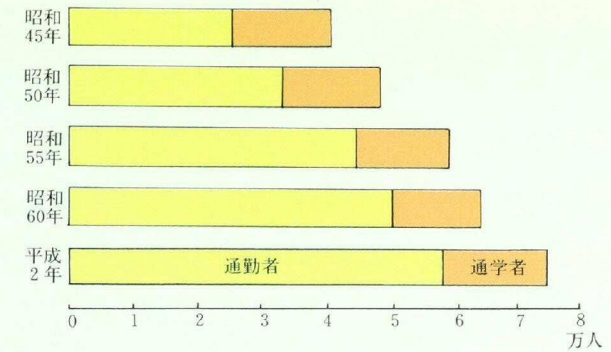
■人口・世帯数の推移

(国勢調査)

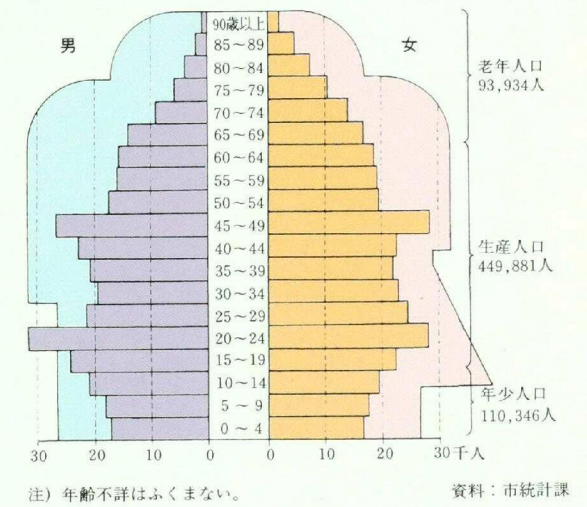


■流入人口の推移

(国勢調査)
(注) 現市域組替



■年齢別人口構成(平成8年10月1日現在)



なお、人口分布の偏りを示す人口重心は、25年から一貫して東へ寄り続け、平成2年では、熊本高校運動場西側に移動し、平成7年には開進高校西門から北へ150mの地点へ移動し今まで東へ移動していた人口重心が今回は旧飽託郡4町の編入により北西へ移動し、向きを変えました。

都市圏人口

熊本都市圏の人口は、平成9年1月1日現在777,332人(288,097世帯)で熊本県総人口の41.7%を占めており、人口増加率は、0.7%となっています。

都市圏人口は、昭和30年国勢調査以降、5年毎に熊本市は4万人前後で増加していましたが、平成2年から平成7年までは約2万4千人(3.8%)の増加となり、伸びが鈍化してきました。また、10町の人口は、昭和45年までは減少し、昭和50年に増加に転じ、55年にピークとなり、増加率は20.5%の大幅な増加となっていました。

昭和45年から平成7年までの25年間の都市圏人口の増加数は約21万6千人となっています。現在、人口増加のピークは過ぎたものの年平均5千人から6千人の増加を続けています。

水と緑の

人間環境都市を目指して

本市は、清れつな地下水や豊かな緑など恵まれた自然環境とそこに息づく生態系循環を大切にし、人と自然が共生する都市をつくる。また、市民が安全で快適に過ごせる生活環境を確保し、ゆとりや潤いのある良好な環境の都市を目指す。

いきいきとした

市民福祉都市を目指して

本市は、すべての市民が、お互いの温かいおもいやりの中で、健康で生きがいに満ちた暮らしを営む社会を築く。また、市民一人ひとりが自立し、各人の能力が自由に発揮され、個性と創造性あふれる多彩な人材が育つ都市を目指す。

活力あふれる

交流拠点都市を目指して

本市は、優れた個性を生かし、多様な都市機能の集積を図り、世界に開かれた人・物・情報の活発な交流拠点を形成する。また、未来を開く新しい技術や情報を活用し、多様な産業活動が活発に営まれ、国際社会の平和と繁栄にも貢献する都市を目指す。

風格ある

文化創造都市を目指して

本市は、先人が築いた優れた特色ある伝統・風土を市民の誇りとして大切に守り育み、風格ある歴史性豊かな都市を形成する。また、市民の豊かな創造力から多様で幅広い都市文化が生まれ、その新しい文化と伝統が調和した都市を目指す。

全ての市民が幸せであると感じられる都市の実現を目指して

しあわせ実感くまもと

HAPPINESS KUMAMOTO



健康を実感できる
安全で健やかな
まちづくり

豊かな人間関係を保つ
心のかようまちづくり

仕事や活動をおして
生きがいを感じる
まちづくり

美しいものに感動できる
豊かな感性を育む
まちづくり

健康を実感できる

「安全で健やかなまちづくり」

健康は人の幸せの基本。市民ひとりひとりが心身ともに充実感を感じられ、環境にやさしい、災害に強い都市を目指します。

